

# 生え際小切開からのリン酸カルシウム骨ペースト(Biopex)注入による前額形成術の検討

飯田 秀夫／竹田 啓介／相川 佳之

Hideo Iida,M.D.,Keisuke Takeda,M.D.,Yoshiyuki Aikawa,M.D.

湘南美容外科クリニック

Shonan Beauty Clinic

## ■抄録

【はじめに】丸く滑らかな額を形成する方法としては、ヒアルロン酸などのファイラー注入や、冠状切開から直視下に骨セメントなどで造形する方法がある。前者は侵襲が小さいものの経時的な吸収や柔らかさといった問題を有する。後者は正確な造形が可能ではあるが、長い癒痕や頭皮の感覚異常といった問題を伴う。両者の欠点を克服すべく、われわれは生え際小切開からリン酸カルシウム骨ペースト(Biopex)を注入して前額形成をおこなったのでその有用性を検討してみた。

【対象および方法】生え際の2か所の小切開より額全体を骨膜下に剥離し、ペースト状のBiopexを注入した。硬化するまでの間に皮膚の上から押さえてBiopexを広げ、額の凹凸の修正を行った。18名(男2名、女16名 年齢分布20～70歳、平均38.8歳)を対象として、額手術の既往、Biopex注入量、合併症の有無、結果および追加治療の有無について調査をした。

【結果】額手術の既往は2例にBiopexの注入歴があり、更に額を丸くしたいとの希望であった。Biopexの注入量は全ての症例で6mlであった。合併症は血腫が2例、創離開が1例、頭皮の感覚異常が1例であった。血腫は再開創と洗浄で軽快し、創離開、感覚異常は保存的に軽快した。術後の額の形態は15例で満足であったが、3例で凹凸感の訴えがあったためメディエッセ注入による修正(0.3～3ml、平均1.3ml)を行った。修正を行った3例のうち2例は術後合併症がなかったが、3mlを注入した1例は血腫を形成したものであった。

【結論】本法は直視下での操作ではないために確実な造形という点で冠状切開による方法に比べて劣り3例(16.7%)で術後に追加処置を必要とした。しかし、手術侵襲は少なく合併症も軽度であり、15例(83.3%)では満足な形態が得られていることから有用な方法であると考えられる。